

万計山荘トイレの管理についての報告

小笠原 実孝（万計山荘友の会 副会長）

万計山荘は札幌真駒内スキー場の奥の登山口から空沼岳(約7 km)の中間にある万計沼の辺に有ります。万計山荘は、登山者の避難用にと定山溪営林署が1965年11月16日に新築され、39年が経過している国有財産です。平成7年に山荘の維持管理の委託契約を結んだ当事、山荘は老朽化の為、崩壊寸前でした。当事のトイレは、ゴミ箱同然でした。レジ袋に入ったゴミ、破れた雨具、などで一杯でした。

山から万計沼には流れ込む川はありません。しかし、沼からは大量の水が流れ出して真駒内川へと流れていきます。一見綺麗なこの水を山荘で使用しております。しかし、万計沼の水は大腸菌で汚染されていて飲めません。なぜ汚染されているのか当初は解りませんでした。沼と言う物はそういう物だと思っていました。それが解れば簡単な話です。山荘側は沼へ向う坂の途中に建っています。雨が降ると地面を伝った雨が山荘のトイレに入りそのまま万計沼へ流れ込みます。トイレは浸透式と言っても木枠で四方を囲っただけで雨が降るたびにトイレを洗浄した水が沼へ流れ込んでいたのです。これが30年続いていたわけです。下流の真駒内川では子供達が水遊びしています。この話を、あるポウリング業者に話したら、真駒内川の河川管理者は札幌市で汚染の状況が知れば指導を受けますよと言われました。話しが逆でないかと思いました。札幌市と営林署と万計山荘友の会とで山荘存続の為の3者協議を行った時は、断られています。資金提供が無いなら自分で集めるしかないと言う事で、募金運動を行い、800万円を集め、山荘の土台、壁、床などの修復を行いました。この時、資金150万円追加して浸透式のトイレを環境に配慮した強化プラスチックの便層を4個設置しました。山荘からの雨水が沼へ入らないように下水溝も掘りました。

空沼岳は年間1万人を超す多くの方が訪れます。殆どが札幌市民です。登山口から山頂の丁度中間にあるのが万計山荘のトイレ。登山道中、1つしか無い山荘のトイレは近辺の自然環境保護に重要な役目を果たしております。この登山道中にはテイッシュの花を見る事は殆どありません。

便層を設置した事が出てきた問題が汲取り費用です。2002年春にトイレに強化プラスチックの便層を4個入れましたが、これが1年で満杯になる事がわかりました。バキューム車を依頼すると、市では札幌市内と言っても、そんな山奥には行けないと断られてしまいました。再三の申し込みで、営林署と市と万計友の会とで現地視察を行い林道を整備した上で検討する事になり昨年秋に汲取りに漕ぎ着けました。次の問題は汲取り費用です。札幌市内の公園トイレのように免除を依頼しておりますが、これも蹴られ3万円ほどの費用を支払いました。山小屋のトイレは悪臭とハエで出来る事なら入りたくない。そこでEM菌を散布しました。すると悪臭は消えました。ハエは風通しを良くしてやると留まる事がなくなりました。ハエの産卵は夏の暑い日の夜に一斉に行われるようです。一夜で便器にビッシリ産卵します。便層を入れてたった1年で沼の水は改善されつつあります。以前は山荘に宿泊しただけでお腹の調子が悪くなったのが今はありません。大腸検査を保健所で行うと¥7千円かかりますので人体実験で行います。沼の水をコップで一気飲みです。お腹の調子が悪くなる事はありません。間違いなく大腸菌が減少しています。